

米の輸入等に関する動向

1 米の輸入の管理・販売状況

国内の米生産に悪影響を与えないように米の輸入・管理を実施
 本年7月から飼料用販売を開始

ミニマム・アクセス米については、全量国家貿易の下、基本的に、政府が全量買い取り、市場の状況を踏まえ、価格等の面で国産米では十分対応し難い用途（主として加工用途）に向けて販売されています（図 - 1）。

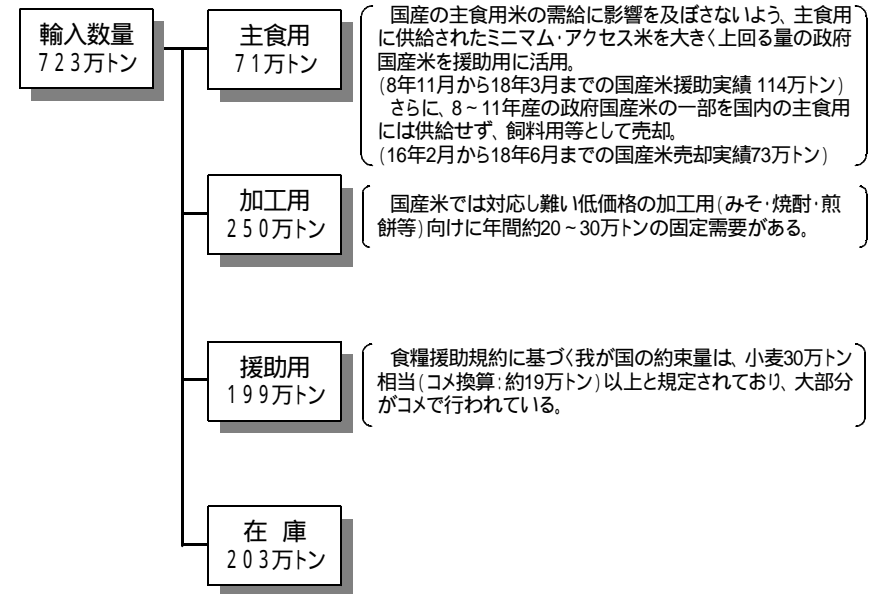
販売されなかったミニマム・アクセス米は、国産米とともに援助用途に充てられているほか、新規用途需要等に充当するよう政府が在庫として管理しています。

しかしながら、ミニマム・アクセス米の在庫は増嵩し、平成18年3月末現在の持越在庫は203万トンとなっています。

このような状況の下、これまで一部を飼料用に販売してきた政府保有国産米のうち、8～11年産米の在庫数量が6月末以降に2万トンを切る見込みとなったことから、本年7月以降、次に古い在庫米である12年度～14年度輸入のミニマム・アクセス米から順次飼料用に販売を開始し、年間30万トン程度を売却していく予定です。

ミニマム・アクセス米以外の米の輸入については、枠外税率が課され、実際の輸入数量はごく限られたものとなっています。

図 - 1 ミニマム・アクセス米の販売状況
 （平成7年4月～18年3月末）



資料：農林水産省調べ

- 注：1) 輸入数量は、18年3月末時点での政府買入実績である。
 2) 在庫203万トンには、飼料用備蓄35万トンが含まれている。
 3) 平成17年10月末時点の援助用数量には16KR援助(計画:22万トン)を計上し、204万トンとしていたが、国際相場(FOB価格等)の上昇等により、援助実績が当初計画していたものより下回ったため199万トンとなった。

2 WTO農業交渉の状況

我が国としては、「多様な農業の共存」を基本理念として、食料安全保障の確保、農業の多面的機能等の非貿易的関心事項を適切に反映し、現実的でバランスのとれた貿易ルールが確立されるよう、交渉に取り組んでいます。

第4回閣僚会議(ドーハ)で開始された新ラウンド交渉「ドーハ開発ラウンド」については、2004年7月末に交渉の大枠となる枠組み合意がなされました。

2005年12月の香港閣僚会議の際採択された香港閣僚宣言においては、農業とNAMAについて、各国共通のルールであるモダリティの基礎となる構造的要素のうち、意見の収れんが見られた内容について整理が行われるとともに、今後のスケジュールについて合意されました。

その後、2006年6月末の閣僚級会合において、農業とNAMAの両交渉議長から6月22日に提示された交渉議長テキストに基づき、集中的な議論が行われましたが、主要国間の見解の隔たりを狭めることができず、合意に至りませんでした。

こうした中、7月16日及び17日にサンクトペテルブルクで行われたG8サミットの議長サマリー等において、今後1ヶ月以内のモダリティ合意を促進するため、全ての国が協調して指導力を発揮し、必要な行動をとることとされました。

これを受け、7月23日及び24日、ジュネーブにおいてG6閣僚会合が開催され、集中的な議論が行われましたが、各国の立場の違いは埋まらず、24日の非公式貿易交渉委員会において全分野の交渉を中断(suspend)するとの結論に至りました。

現時点では、交渉再開の具体的な時期は明らかになっておらず、今後の見通しは立っていない状況にあります。我が国としては、交渉の進展に向けて、引き続き積極的に寄与しつつ、我が国の主張ができる限り反映され、今次ラウンドが成功裡に終結するよう、取り組んでいきます。

2005年12月香港閣僚宣言(農業)

- 市場アクセス
- 適切な境界値についての合意の必要性を認識しつつ、関税削減方式は先進国・途上国共通の4階層を採用
- 関連するすべての要素を考慮に入れ、重要品目の扱いに留意する必要がある
- 3階層(EU、日本、米国、その他の国)で高階層は大きく定率削減
- 貿易歪曲的支持全体の削減は、総合AMS(黄の政策)の最終議定水準、デミニミス(最小限の政策)、青の政策の削減の合計の方が小さくても行われる必要
- 輸出競争
- 2013年までにすべての形態の輸出補助金の並行的撤廃及び同等の効果を持つ全ての輸出措置に対する規律を確保
- 輸出信用、輸出国家貿易、食料援助に関する規律は、2006年4月末までにモダリティの一部として完成

表 - 1 WTO農業交渉のスケジュール

2004年7月末	枠組み合意
2005年7月末	交渉状況の評価
12月	WTO第6回閣僚会議(香港)〔閣僚宣言の採択〕 〔12/13～18〕
2006年5月	WTO非公式閣僚会合(パリ)〔5/23〕
6月	農業・NAMAモダリティ議長テキストの提示〔6/22〕
6月末	WTO閣僚級グリーンルーム会合(ジュネーブ) 〔6/29～7/1〕
7月中旬	主要国首脳会議(ロシア・サンクトペテルブルク)
7月末	WTO G6閣僚会合(7/23～24) WTO非公式貿易交渉委員会(7/24) 全分野の交渉が一時中断

資料：農林水産省作成

3 国内産米の輸出について

国内産米の商業用輸出は、台湾、香港、シンガポール等の東アジア地域を中心に増加傾向

(1) 米の輸出状況

国内産米は、商業用として年間400～500トンが輸出されておりますが、近年、台湾、香港、シンガポール等の東アジア地域において、経済発展を背景に、富裕層が増加し、日本食も普及・定着しつつあることから、同地域に対する国内産米の輸出実績も増加傾向にあり、平成17年度では全体で760トンとなっております（表 - 2、3）。

(2) 米の輸出促進に向けた国の支援体制について

米の輸出促進については、全国生産者団体が中心となり、販売を前提とした試食会の開催等、東アジア地域を中心に積極的な取組が行われ、高品質な日本産米が高い評価を受けています。

（表 - 4）

また、JA全中・全農は、平成18年6月2日に成田空港第二ターミナル出国手続後の区域に国産農産物販売店舗「ぶらんどJA」をオープンし、海外からの旅行者等に対し、日本産米を中心とした農産物のPR等を行っております。

このような状況の中で、農林水産省としても、国産農産物の輸出促進を「攻め」の農政の柱の一つとして捉え、生産者団体等による主体的な取組に対する支援を行うこととしており、検疫や通関など輸出先国の制度により輸出阻害要因となっているものについては、相手国に対して必要な改善を要請・折衝しています。

表 - 2 商業用米穀輸出の主な輸出先国・地域（17年度）

（単位：精米トン）

台湾	香港	シンガポール	米国	その他	計
484(232)	95(67)	59(76)	54(32)	68(62)	760(469)

資料：農林水産省調べ

注：（ ）内は16年度実績である。

表 - 3 商業用米穀輸出の主な事例（17年度）

輸出先	販売方法等	取扱銘柄	輸出実績	現地販売価格
台湾	高齢者向け、日本食高級料理店、おにぎり用、加工米飯等多岐にわたり販売	新潟県産「コシヒカリ」、栃木県産「コシヒカリ」等	110トン	740円～800円/kg
	富裕層向けに百貨店で販売（評価は高く、全て完売）	島根県産の減農薬「ヘルシー元気米」	5トン	700円/kg
香港	富裕層向けに高級スーパー等で販売	新潟県産「コシヒカリ」、秋田産「あきたこまち」	27トン	600円～700円/kg
シンガポール	在留邦人向小売及び日本料理用	新潟県産「コシヒカリ」、秋田県産「あきたこまち」等	30トン	600円～1,200円/kg

資料：農林水産省調べ

表 - 4 生産者団体等の米輸出の取組状況（17年度）

内容	台湾	香港	シンガポール	タイ
食品見本市への出店及び主な日本産米PR活動等	お米ギャラリー-銀座からの出店によるおにぎり実演販売	香港国際食品・飲料展	日本産米を使った料理教室	日本食品フェア
実施日	2005.11.10～13 2006.1.29～31	2005.5.10～13	随時	2005.12.8～11
会場	高島屋日本物産展 微風広場春節フェア	香港コンベンション・エキシビションセンター	明治屋内物チフススタジオ Ms.Hosoi studio	クイーンズリットル・コンベンションセンター
来場者数・販売個数	約3,000名 約3,000個	約29,000名	約400人	約28,000名
試食会など（会場で炊飯）	北海道産「ほしのゆめ」、山形県産「はえぬき」、新潟県産「コシヒカリ」（いずれも無洗米）	福島県産「ひとめぼれ」、千葉県産「コシヒカリ」、新潟県産「コシヒカリ」（いずれも無洗米）	新潟県産「コシヒカリ」、北海道産「ほしのゆめ」（いずれも無洗米）	北海道産「ほしのゆめ」、宮城県産「ひとめぼれ」、新潟県産「コシヒカリ」（いずれも無洗米）
販売				
発売日	2004.10.5～	2005.5.10～	2004.10.28～	2004.12.8～
取扱銘柄	北海道産「ほしのゆめ」、山形県産「はえぬき」、新潟県産「コシヒカリ」	福島県産「ひとめぼれ」、千葉県産「コシヒカリ」、新潟県産「コシヒカリ」	北海道産「ほしのゆめ」、秋田県産「あきたこまち」、新潟県産「コシヒカリ」	北海道産「ほしのゆめ」、宮城県産「ひとめぼれ」、新潟県産「コシヒカリ」
販売開始後の総輸出数量	16年産 計17トン 17年産 計7トン	16年産 計15トン 17年産 計17トン	16年産 計33トン 17年産 計22トン	16年産 計7トン 17年産 計3トン
価格	590～740円/kg	900～1,040円/kg	680～850円/kg	790～1,000円/kg

資料：全国生産者団体調べ

注：発売日については、当該輸出先国における販売を開始した日である。